

男女群島における春季の鳥類相*1

関 伸一*2

関 伸一：男女群島における春季の鳥類相 九州森林研究 59：192-193, 2006

キーワード 男女群島 男島 女島 春季 鳥類相 希少鳥類

I. はじめに

男女群島は五島列島の南南西約70kmの東シナ海に位置する島嶼群である。男女群島の総面積は約4.7km²にすぎないが、その地理的条件により、島嶼性の鳥類や海鳥の繁殖地となっており、島嶼性の高い希少種カラスバト *Columba janthina*・アカッコ *Turdus celaenops*・ウチヤマセンニュー *Locustella pleskei* も確認されている。また、黒潮の影響により九州本土の同緯度地域に比べて温暖で、常緑広葉樹林が発達しており、琉球列島を分布の中心とする希少種アカヒゲ *Erithacus komadori* の北限の繁殖地となっている(長崎県生物学会, 1973)。さらに、ユーラシア大陸東部の渡りルート上の中継地として重要な地域であることも報告されている(北脇ほか, 1989)。

男女群島の鳥類については1970年代から1980年代にかけていくつかの報告がある。特に、アカヒゲについては2回の生息密度調査が行われ、2回目の調査では生息密度の低下が報告され、森林の攪乱やノネコ *Felis catus* とハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* の増加の影響によるものと推測された(北脇ほか, 1989)。しかし、1990年代以降は報告がなく、アカヒゲなどの希少鳥類の現状も全くわかっていない。そこで、2003~2005年にかけて、男女群島の女島および男島において、特に先に触れた希少種4種の生息状況を明らかにすることを目的に、観察される鳥類種を調査した。

II. 材料と方法

男女群島は男島・苦路岐島・寄島・花栗島・女島の五島からなり、北東から南西に約10kmにわたって連なっている。北端の男島は群島中最大の島で、面積は2.7km²である。島の周囲はほとんど断崖となっているが、標高100m以上はモクダチバナ *Ardisia sieboldii* やタブノキ *Machilus thunbergii* の森林となっている。苦路岐島・寄島・花栗島はいずれも面積0.25km²以下の岩礁で、ハチジョウススキ *Miscanthus condensatus* などからな

る草原状の群落に覆われている。南端の女島の面積は1.4km²で、一部に礫浜はあるものの、やはり島の周囲のほとんどは海食崖となっており、上部の平坦地のみ森林が発達している。

調査は森林が発達している二島、女島および男島で行った。調査期間および調査地域は表-1の脚注に示したとおりである。調査は観察された種をその都度記録する方法をとった。また、それぞれの島に標高0~200mの地域を含む調査路を設定し(図-1)、調査路を繰り返し踏査して、周辺に出現する種をできるだけ多く記録するよう努めた。

III. 結果と考察

調査期間中に合計9目24科71種が確認された(表-1)。このうち、過去にも春~夏の記録があり、繁殖している可能性の高い種は10種のみで、残りの61種は渡り途中などに一時的に滞在していると考えられた。島別にみると、女島では述べ5日間で68種、男島では2日間で25種が確認された。過去に女島・男島で記録された繁殖の可能性のある希少種のうち、カラスバトは女島と男島で鳴き声・姿を頻繁に確認することができた。一方、アカヒゲが確認できたのは男島のみで、男島で踏査した約1kmの調査路周辺で確認できたアカヒゲのさえずり地点は4カ所のみであった。

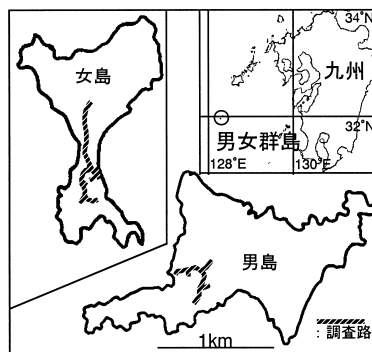


図-1. 調査地の位置および調査路

*1 Seki, S-I. The avifauna during spring period in the Danjo Islands.

*2 森林総合研究所九州支所 Kyushu Res. Center, For. and Forest Prod. Res. Inst., Kumamoto 860-0862

男島・女島で記録のあるアカコッコ、女島で記録のあるウチヤマセンニュウは今回の調査では確認できなかった。

調査路周辺でのアカヒゲの確認数を、1980年に行われた北脇ほか(1981)の調査と重複する区間のみ比較すると、女島では7羽から0羽に、男島は10羽から4羽に減少していた。1988年に調査を行った北脇ほか(1989)も女島における生息密度の低下を報告しており、強い台風による森林の衰退と、人為の影響によるノネコやハシブトガラスの増加とを減少要因として指摘している。ハシブトガラスの群やノネコは今回の調査でも確認され、アカヒゲの生息密度の継続的減少に関係している可能性がある。今後は、希少種を含む繁殖種の現状を、より詳細に調査する必要がある。

表-1. 女島および男島で春季に記録された鳥類

種名	女島		男島	種名	女島		男島
	2003*	2004*	2005*		2003*	2004*	2005*
オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i> **	+	+	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori</i> **		+
カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>		+	ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	+	
ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	+	+	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	+	+
アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	+	+	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i> **	+	+
アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	+	+	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	+	+
ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	+	+	マミジロ	<i>Turdus sibiricus</i>	+	
チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		+	カラアカハラ	<i>Turdus hortulorum</i>		+
コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	+	+	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		+
クロサギ	<i>Egretta sacra</i>		+	アカハラ	<i>Turdus chrysolous</i>	+	+
アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	+	+	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	+	+
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i> **	+	+	マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>		+
トビ	<i>Milvus migrans</i>	+	+	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	+	+
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	+	+	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	+	
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	+	+	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	+	+
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	+	+	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	+	
クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	+	+	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	+	+
タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>		+	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	+	+
キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	+		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		+
イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>		+	オジロビタキ	<i>Ficedula parva</i>		+
ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i> **	+	+	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	+	+
カラスバト	<i>Columba janthina</i> **	+	+	エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	+	
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	+	+	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	+	+
コノハズク	<i>Otus scops</i>	+	+	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	+	+
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	+	+	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i> **	+	+
ヒメコウテンシ	<i>Calandrella cinerea</i>	+		ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	+	
ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	+	+	コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>		+
コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	+	+	シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i>		+
イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>		+	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	+	+
ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	+		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	+	+
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i> **	+	+	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	+	+
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	+	+	ギンムクドリ	<i>Sturnus sericeus</i>	+	+
マミジロタヒバリ	<i>Anthus novaeseelandiae</i>	+		コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	+	+
ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	+	+	カラムクドリ	<i>Sturnus sinensis</i>	+	
ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>	+	+	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	+	
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	+	+	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i> **	+	+
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i> **	+	+				

(種数合計：71種)

*調査期間および調査地域は以下のとおり

2003/5/2~5/4 女島、北部高地・前浜棧橋~女島灯台、約1300mの調査路周辺

2004/5/1~5/3 女島、前浜棧橋~女島灯台、約800mの調査路周辺

2005/5/2~5/3 男島、東風泊上部斜面、約1000mの調査路周辺

**過去のほとんどの調査で春夏とも記録があり、繁殖している可能性の高い種

本研究を行うにあたり、男島調査では遠藤晃氏にご協力いただいた。また、日本野鳥の会長崎県支部には標識調査に同行させていただくなど多大な便宜を図っていただいた。ここに厚く御礼申しあげる。女島および男島への上陸は、長崎県教育委員会、文化庁、および長崎森林管理署の許可を得て行われた。この研究の一部は科学研究費 No.17780130によって行われた。

引用文献

北脇ほか(1981) 特殊鳥類調査, 29-44, 環境庁, 東京.

北脇ほか(1989) 特殊鳥類調査, 1-30, 環境庁, 東京.

長崎県生物学会(1973) 男女群島の生物, 長崎県生物学会, 長崎.

(2005年11月14日 受付: 2005年12月15日 受理)